

経営状況と経営支援



藤が丘駅の朝のラッシュ時の様子

1 経営上の課題～足かせとなる「長期借入金」～

先月号でお伝えしたとおり、リニモの乗客数は、愛知万博開幕翌年の平成18年度からの9年間で、約250万人増加しています。

この状況にも関わらずリニモが苦戦を強いられてきたのは、開業時の借入金返済が経営上の重荷になってきたからです。

そもそもリニモは、開業時に車両の購入や改札機システムの整備などに356億円が必要でした。そのうち2割の

71億2千万円は自治体と民間企業の出資を受けましたが、残りの8割は長期借入金を組んで調達しました。その額は、284億8千万円で、毎年の借入金返済額は元利合わせて10億円を超えています。

そこで、愛知県と沿線市では、債務超過や資金不足に陥る前に、初期投資に伴う長期借入金返済負担を会社経営から切り離し、財務構造の抜本的な改善を図るため、経営支援を行ってきました。

